平成２８年度第５回広島市環境審議会　議事要旨

１　日時

平成２９年３月１６日（木）　午前１０時～午前１０時４５分

２　場所

広島市役所本庁舎１４階第３会議室

３　出席委員

岡田 光正（会長）、田中 純子（副会長）、粟屋 仁美、大下 房子、沖本 英里、牧里 重喜、清田 誠良、佐々木 緑、寒川 起佳、谷 哲子、戸田 真紀、中城 秀典、仁井 孝尚、長谷川 弘、林 武広、柳下 正治、若松 伸司（以上１７名）

４　次第

⑴　開会

⑵　議事

報告　広島市地球温暖化対策実行計画（素案）に対する市民意見募集の結果について

議題　広島市地球温暖化対策実行計画（案）について

⑶　閉会

５　公開・非公開の別

公開

６　傍聴人の人数

１名

７　会議資料

- 広島市地球温暖化対策実行計画（素案）に対する市民意見募集の結果について（資料１）
- 広島市地球温暖化対策実行計画（素案）からの主な変更点について（資料２）
- 広島市地球温暖化対策実行計画（案）の概要（資料３）
- 広島市地球温暖化対策実行計画（案）（資料４）

８　議事要旨

発言者	発言要旨
岡田会長	・　本日の議事は報告が１件、議題が１件である。事務局から説明をお願いする。
温暖化対策課長	【報告　広島市地球温暖化対策実行計画（素案）に対する市民意見募集の結果について、議題　広島市地球温暖化対策実行計画（案）について説明】
岡田会長	・　ただ今の説明について、御質問、御意見等があれば承りたい。
柳下委員	・　５２ページの四つの柱のうち、第１と第２の柱は２０２０年、第３と第４の柱は２０２０年を過ぎてから検討を始めるような書き方になっている。３月１日に開催された国の中央環境審議会地球環境部会長期低炭素ビジョン小委員会にて、長期低炭素ビジョンの取りまとめが行われたが、そこでは、２０２０年や２０３０年のことではなく、その先をどうするかという議論を行っている。それは、将来的に大胆なことをやるのであれば、大胆であるほど早く準備しないと間に合わないという発想に基づくものであり、その点で、国と広島市の考え方は違うように見える。 ・　２０５０年に低炭素都市“ひろしま”を作るために、何か大胆なことを行うとしたら、そのための勉強は直ちに行わなければならない。年寄りは、既得権益で議論してしまうことがあるので、本計画を絵に描いた餅にしないためには、２０５０年に市長になるような、電力会社の社長になるような若い人たちが、２０５０年の広島を一体どうするのか議論するくらいの大胆さをもって、準備を行うことが大事だと思う。低炭素まちづくり市民会議（１１２ページ）という組織を作るに当たっては、そのようなことも念頭に置いたらいいのではないかと思う。 ・　本日（3月１６日）も、東京で中央環境審議会地球環境部会長期低炭素ビジョン小委員会が開かれている。その委員会では、カーボンプライシングという論点がある。カーボンプライシングとは、皆でＣＯ２の排出を規制して頑張りましょうといったことを考えなくても、経済の仕組み自体にカーボン排出抑制のことを組み込み、必然的に低炭素に向かわざるを得ない社会にしないといけないという発想を基にした考え方である。カーボンプライシングについては、経済成長の観点から慎重にやるべきだという考え方もあり、中央環境審議会でも推進派、慎重派に分かれて議論が行われている。 ・　本計画には、２０５０年に向けて温室効果ガスを大幅削減させるということでいろいろ書いているが、これを１回ブレイクダウンする、要するに理念で議論するのではなくて、数値化をして、実際にモデルを作って、詳細に議論するということを同時並行でやっていき、どういう社会になるかと実証していかなくてはならない。 ・　エネルギーミックスについては、日本は２０３０年時点までのことしか議論していない。原子力はどうあるべきか、再生可能エネルギーの大胆な導入はするか、導入するならどれくらいのコストをかけないといけないのか。ま

	た、最近石炭火力発電所の建設が問題となっているが、その扱いはどうするのかといったようなことを、長期を見据えてもっと詳細に検討しなくてはならないと思う。 ・　そういった問題点を国に全て委ねて、広島は広島でやるというわけにはいかないと思う。いずれそういった問題には巻き込まれるので、本計画には書いていないが、そういったことの検討を、国は２０１８年のＣＯＰ２４までには議論すると思うので、広島も、日本国の重要な一員として、それに対する準備をしておくことが非常に大事だと思う。 ・　広島は中国四国地方をけん引する都市であり、世界中が注目する有名な都市なので、その自覚をもって、国の動き、国際的な動きを先取りするくらいの体制というものがこれから大事ではないかと思う。
岡田会長	・　柳下委員の御意見は、これから計画を実行していく上でのサジェスチョン（提案）というふうに受け止めさせていただきたい。
中城委員	・　用語の解説を追加していただき、感謝している。 ・　本文１１４ページのエコアクション２１の説明に、「中小企業等においても容易に環境配慮の取組を進めることができるよう、環境マネジメントシステム、環境パフォーマンス評価及び環境報告を一つに統合した環境配慮ツール」と書かれているが、エコアクション２１の中央事務局に問い合わせたところ、「環境配慮ツール」よりも「環境経営ツール」という表現にした方がいいのではないかというアドバイスを頂いた。 ・　エコアクション２１の中央事務局のアドバイスの意図としては、環境に関する取組については、経営の中で単に配慮するのではなく、経営そのものの中に入れ、目標を立ててＰＤＣＡサイクルを回していくということがますます重要になってくるということだろうと思うので、配慮したというニュアンスではなく、思い切り経営の中で取り組んでいくんだということで、「環境経営ツール」という表現に変えていただけるとありがたい。
岡田会長	・　このことについては、事務局で、エコアクション２１の事務局に確認してから、本計画の最終案を提出する前に適宜修正していただきたい。
寒川委員	・　今柳下委員からも話があったが、広島には広島の特徴がある。カープに例えれば、他のチームはお金がたくさんあるのでたくさん使っているが、カープはお金がない中で優勝し、国民の支持も得た。 ・　環境に関する取組は、国は国として考え、広島は広島の個性を生かして、市民が受け入れやすい形で計画を作り、実際に取り組んだらまちが良くなったと実感できるような形で取り組んだ方がよいと思う。 ・　広島は、広島でこそできる、環境に関する運動を地道に展開することが、本当の意味で素晴らしい都市につながるのではないかと思う。
岡田会長	・　寒川委員の御意見も、本計画の具体的な実行に向けての貴重な御意見だと思う。
若松委員	・　本計画は、格調高く、構成もしっかりしているし、今後３０年の土台となる非常によいものが出来上がったと思っている。

	・　計画において、広島市内だけではなく、国内外の都市、ハノーバー広域連合との取組も始まるということなので、この計画を英訳して、海外にも発信していただきたい。 ・　皆に知ってもらうと、その分広島市にプレッシャーもかかるが、３年後、１０年後見直すことも出来ると思うので、是非この計画を広く普及させて活用していただきたい。
岡田会長	・　今の御意見は、実現させるのは大変であるが、重要、かつ、大きな意味がある。計画を海外に発信する予定はあるか。
温暖化対策課長	・　平成２７年度に加盟した首長誓約というグローバルな取組において、本計画を英訳するということを表明している。要約になるかもしれないが、英訳をして、ホームページで国外に向けて発信していきたい。
岡田会長	・　広島は特に外国人の観光客も多いので、可能な範囲で是非行っていただきたい。 ・　本日は、修正意見一つと、今後に向けてのサジェスチョン（提案）を頂いた。 ・　本日頂いた御意見、修正については、適宜、施策に反映させていただくということで、広島市地球温暖化対策実行計画（案）、すなわち、新たな地球温暖化対策地域推進計画については、基本的に案のとおり答申させていただくということでよろしいか。
広島市環境審議会委員	・　異議なし。
岡田会長	・　それではそのように取り計らわせていただく。本日予定していた議事については以上である。委員の皆様においては、昨年４月以降、５回にわたり御審議いただき、心から感謝している。 ・　私としても、計画は、他の委員からも意見があったように、きちんと根拠に基づいたいいものができたと思っている。重要なのはこれから計画をどのように実行していくかということである。高い目標を持ちながら、地元の意見や市民の考え方をきちんと踏まえないといけないというのは、難しい面もあるかと思うが、これはどの自治体、国においても同じなので是非よろしくお願いしたい。
環境局長	・　今年度は、この新たな地球温暖化対策地域推進計画の策定に当たり、岡田会長をはじめ、委員の皆様には、熱心に御審議いただき、お陰様で、本日答申を頂く運びとなり、心から感謝を申し上げる。 ・　今期の環境審議会では、昨年度の環境基本計画、今年度の温対計画と、２年連続で環境分野における重要な行政計画の策定について御審議いただき、数々の貴重な御意見等を賜った。 ・　今後は、皆様から頂いた御意見等を基に、各計画の進行管理をしっかりと行っていきたいと考えている。
岡田会長	・　他にないようであれば、本日の会議を終了する。